禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

D18

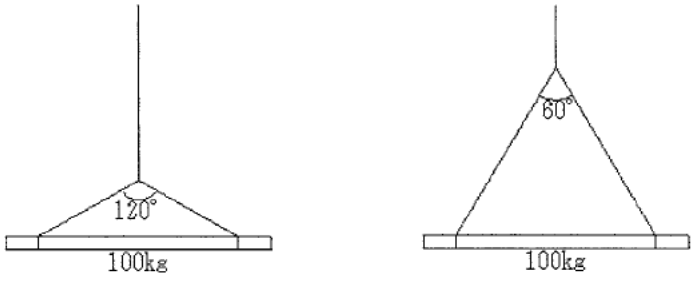
「中央職業能力開発協会編」

# 令和７年度 技能検定
# ３級 型枠施工 学科試験問題
# (型枠工事作業)

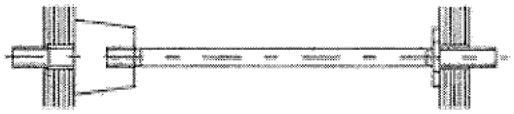
1. 試験時間　１時間
2. 問題数　30題
3. 注意事項
   (1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2)　答案用紙(真偽法用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。
   (4)　試験開始の合図で始めてください。
   (5)　解答の方法(真偽法)は次のとおりです。
   イ.　一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
   ロ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
   ハ.　答案用紙の解答欄は、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄は100題まで解答できるようになっています。
   (6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

1　ラチェットレンチは、フォームタイなどのナットを締め付けるときに使用される。

2　次図のA及びBにおいて、玉掛けワイヤロープにかかる張力は、Bの方が小さい。




3　次図のセパレータは、BC型である。



4　デッキプレート型枠工法では、一般に、支保工を使用しなくても床スラブを施工することができる。

5　型枠施工に使用されるフラットデッキプレートは、一般に、脱型や再利用をせずに、そのまま残す。

6　スチールテープで直角を求めるときは、各辺の長さが4m、5m、6mの三角形を描けばよい。

7　型枠の下ごしらえをしたせき板には、加工図に従って符号(記号)を記入するとよい。

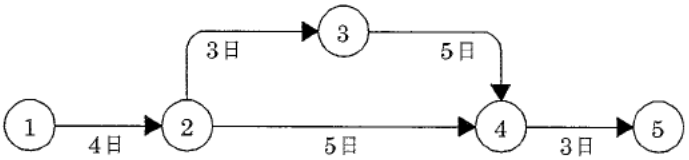
8　型枠は、建築物の部位によって存置期間が異なるので、部位ごとに解体できるように組み立てるのがよい。

9　型枠の締付けは、釘やなまし鉄線を主体として行えば十分である。

10　夏期にコンクリートを打設する場合、せき板を早めに取り外し、コンクリートの水分を蒸発させるとよい。

11　型枠の解体時期は、気温には影響されない。

12　次図の工程表において、すべての作業を完了するには、12日間あればよい。




13　常温における鉄筋とコンクリートの線膨張係数は、ほぼ等しい。

14　打放し仕上げのコンクリートの型枠用合板には、塗装合板が多く使用される。

15　パイプサポートは、3本継いで使用してもよい。

16　型枠施工に使用するはく離剤は、脱型及び清掃などを容易にするために使用する。

17　木材の圧縮強度は、一般に、木材が乾燥するほど低下する。

18　コンクリートを打設する場合、棒形振動機(棒状バイブレータ)の先端は、型枠やセパレータなどに接触しないように使用する。

19　コンクリートは、スランプ値が小さいほど軟らかい。

20　鉄骨造は、鉄筋コンクリート造よりも高層の建築に適している。

21　壁式鉄筋コンクリート造は、鉛直方向と水平方向の荷重を壁で負担する。

22　鉄筋コンクリート造では、鉄筋が圧縮力を負担する。

23　鉄骨造は、耐火被覆をしなくても耐火構造である。

24　枠組壁構法は、木造建築の構法の一つである。

25　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、地盤を表す材料構造表示記号である。



26　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、次図は、軽量壁一般を表す材料構造表示記号である。



27　建築基準法関係法令によれば、鉄筋コンクリート造に使用するコンクリートの骨材は、鉄筋相互間及び鉄筋とせき板との間を容易に通る大きさであることとされている。

28　建築基準法関係法令によれば、主要構造部とは、壁、柱、床、梁、屋根又は階段をいう。

29　移動式足場(ローリングタワー)は、人を乗せたまま移動してもよい。

30　労働安全衛生法関係法令によれば、丸のこ盤を使用して合板を切断する場合、軍手をして行うとよい。